

聖書の中に答えがある

質問式聖書の学びシリーズ 1

(教師用ガイド)

目次

- 1章 あなたはなぜ生きるのですか？（創世記 1 章）
- 2章 人はなぜ苦しみに会うのですか？（創世記 2, 3 章）
- 3章 イエスは誰ですか？（ヨハネ 1 章）
- 4章 あなたの主人は誰ですか？（ヨハネ 2 章）
- 5章 どうすれば天国に入れますか？（ヨハネ 3 章）
- 6章 どうやって礼拝しますか？（ヨハネ 4 章）
- 7章 イエスはなぜ死んだのですか？（ヨハネ 19 章）
- 8章 イエスはなぜ復活しましたか？（ヨハネ 20 章）
- 9章 世の終わりはいつですか？（マタイ 24 章）
- 10章 いつ洗礼を受けますか？（使徒 8 章）

この本の使い方

この本は、イエス・キリストをまだ信じていない人が、教えて導いてくれる人と一緒に聖書を学ぶために作られました。もちろん、すでに信じているけどクリスチャン生活についてもう一度学びたい人のためにも、使うことができます。1対1で学んだり、家庭集会や小グループで学んだりするときにも使うことができます。学ぶ人は、この本の「書き込み用教材」と聖書（この教材では、「新改訳 2017」を引用しています）、そして筆記用具を準備して下さい。学んだことや感じたことを、その場ですぐに書き込んでおくと、後で読み返したときに、よく思い出することができます。

導く人は、まずこの本の「教師用ガイド」を持って、その日に学ぶ章のタイトルと聖書箇所を言います。そしてその箇所（例えば、1章であれば、創世記1章全部）を、参加者全員で声を出して読みます。1節ずつ輪読したり、導く人と参加者が1節ずつ交読したりしても良いです。これは、聖書の物語全体の流れを把握するために必要なもので、読む量が長くて大変でも、省略しないようにして下さい。その後、導く人は質問を読み、その下を書いてある聖書箇所を、誰か1人に読んでもらうように指名します。その人が読んだ後、導く人は再び質問をその読んで、誰かにその答えを言ってもらいます。いつも同じ人ばかりが答えるのではなく、「他の人はどうですか？」と言って、みんなに発言を促して下さい。導く人はあまり話しすぎないで、参加者みんなが積極的に答えて、自由に話し合いができるような雰囲気を作って下さい。話しがまとまってきた後で、導く人は、教師用ガイドの「解説」の所を読みます。もちろん、これは参考なので、導く人が短く自由にまとめても良いです。その後、次の質問に移ります。各章の最後の質問は「まとめと適用」の質問です。参加者全員が一人ずつ発言して、自分の生活に具体的に適用して、実際に決心できるように導いて下さい。そして、祈りを持って学びを終わります。

この本は、学ぶ人が自分で聖書の中から答えを見つけることができるように作られています。自分から聖書を開いて「みことばは何と言っているか」を探す習慣がつくと、それが神の御声を聞く訓練になります。みことばを読んでその意味をよく考えて、それを自分の実際の生活に適用し、みことばを実践していくとき、その人は霊的に成長していきます。自分自身で見つけた答えというのは、後になっても忘れません。また、他の参加者の答えを聞くときに、以前から知っていた聖書箇所も新しく感じるものです。

導く人は、この本を使って、未信者がイエス・キリストを信じるように助けることができます。質問はそれほど難しくなく、その聖書箇所をよく読んで考えれば、誰でも簡単に答えられます。なので、聖書知識をたくさん持っていない人でも、すぐに導くことができます。そして、導く人は、自分自身が一番学び、成長できます。みことばを教えることによって、たましいの救いのために仕える喜びを体験するようになります。

この本を使う人がみな、神のみことばによって共に成長していく祝福を味わいますように、主の御名によって祈ります。

2019年3月21日

1章

あなたはなぜ生きるのですか？（創世記 1 章）

まず、旧約聖書の最初、創世記の 1 章全部（1 節から 31 節まで）を、声を出して読んでみましょう。その後で、以下の質問に答えて下さい。

1、神はどんな方ですか？（創世記 1 章 1 節を読んで下さい。その中に答えがあります。）

（創世記 1：1）はじめに神が天と地を創造された。

（解説）神は、天地万物を造られた創造主です。そして、初めから存在しておられた永遠の神です。創造主なる神を造った神、というのは存在しません。だから創造主は、誰からも造られたことのない、ただひとりの神、唯一の神です。この世界、この宇宙の中に存在する一切のものの中で、創造主なる唯一の神が造らなかったものというのは、一つもありません。物質と霊、時間と空間、宇宙の全ての星や地球、そしてその中の全てのものは、この神が創造したのです。神によって造られた物は「被造物」と言います。被造物は、「自然」にできたものではありません。そして、被造物である宇宙や地球、大地、山、海、動物、人間、金や石で作られた物などは当然、神ではありえません。人間が神を作ったのではなく、神が人間を造ったのです。ですから、神は私たち人間全ての主人であり、私たちはその神の所有物なのです。誰も、親を選んで生まれてきた人はいません。それと同じように、私たち人間も神を選ぶことはできません。だから私たちは、色々な宗教の神々の中から、自分の好きな神を選ぶではありません。唯一の創造主を、そのような色々な神々の中の 1 つだと考えてはいけません。神によって造られた私たち人間はみな全員、世界中のどの民族であっても、この唯一なる創造主に従って生きるべきものなのです。

2、神はどうやって光を造りましたか？

（創 1：3）神は仰せられた。「光、あれ。」すると光があった。

（解説）神は「ことば」で、光やその他の物を造られました。神が「このようにあれ」と仰せられると、それはそのままそのようになります。神のことばには、そのような力、万物を従えさせる権威があるのです。神の言ったことは、必ずそのようになります。だから神は何でもできる全能の神です。神にできないことは何一つありません。そしてその神のことばは必ず実現するので、全てそのまま信じるに値するもの、真理そのものです。神が言うておいてできないことはなく、神がウソをつくことも決してありません。だから神のことばは全て、真理だと信じて良いのです。この聖書のことばは、神のことばです。神が命令したのであれば、被造物である私たちは、それにそのまま従うべきであり、そうするように造られたのです。

3、神は何のために、太陽と月を造りましたか？

（創 1：14）神は仰せられた。「光る物が天の大空にあれ。昼と夜を分けよ。定められた時々のため、日と年のためのしるしとなれ。」

（創 1：16）神は二つの大きな光る物を造られた。大きいほうの光る物には昼を治めさせ、小さいほうの光る物には夜を治めさせた。また星も造られた。

（解説） 神は全ての物を、目的をもって造られました。太陽には昼を治めさせ、月には夜を治めさせました。それぞれに担当と役割があり、しるしのため、季節のため、日や年を数えるために、役に立つように創造されたのです。目的もなく、無意味に偶然に造られた物など一つもありません。イスは座るため、ボールペンは書くために造られました。では、あなたは何のために造られましたか？・・・人間が作ったものは、人間のために存在します。それと同じように、神が造った全ての被造物は、神のために存在しています。あなたは、神のために造られ、神のために存在しているのです。

4、神はどうやって生き物を造りましたか？

（創 1：24）神は仰せられた。「地は生き物を種類ごとに、家畜や、這うもの、地の獣を種類ごとに生じよ。」すると、そのようになった。

（解説） 神は全ての生き物を「種類ごとに」創造しました。ある人々は、進化論を信じていて、猿が人間になったと思い込んでいます。しかし、猿の子孫は猿です。何万年たっても、人間にはなりえません。命は命からしか生まれません。命のある全ての生き物は、命の源である神から生まれたのです。偶然に、突然変異で進化して生まれたものではありません。創造主である神が、ひとつひとつ、その種類ごとに完全に創造したのです。

5、神はどうやって人を造りましたか？

（創 1：27）神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

（創 2：7）神である主は、その大地のちりで人を形作り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで人は生きるものとなった。

（コロサイ 3：10）新しい人は、それを造られた方のかたちにしがって新しくされ続け、真の知識に至ります。

（解説） 人は神のかたちとして造られました。神は霊であるから、目には見えません。では、神のかたちとは何でしょうか？それは、神のご性質、品性に似せて造られた、という意味です。例えば、神が聖であるように、人間も聖なるものとして造りました。神が愛であるように、人間も愛することができま

す。神が霊であるように、人間も霊を持っています。人間は、他の被造物と違って、神に似たものとして、特別な存在として創造されました。人間は神ではないけれど、神のように生きるように造られました。神のような性質を持って、聖く生きるように、愛をもって生きるように造られたのです。神を信じて、神に従うなら、私たちは神のかたちにますます似ていくようになります。神との親しい交わりをもって生きていくとき、私たちは日々神の似姿に変えられていくのです。目に見えない神を、世の人々は どうやって知ることができるでしょうか？それは、神を知った私たちが、神のかたちに変えられていくとき、私たちの生き方を見て、まことの神を信じるようになるのです。

6、神は人に何と命令しましたか？

（創1：28）神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

（解説）神は人に、全てのものを支配するように命令しました。本来は、神が全ての支配者、所有者です。しかし神は、万物を人間の手にゆだねました。だから、人間は神の代理人として、神のために万物を正しく管理するのです。これが、人間を造った目的、人間の使命でした。では、あなたは今、地を従えて、万物を支配していますか？・・・多くの人々は、この世の状況に支配されて生きています。では、なぜそのようになってしまったのでしょうか？それは私たちが罪を犯して神から離れたからです。神に従わず、神から離れた生き方をしているとき、私たちは世の中の周りの状況の奴隷となります。人間関係の恐れ、仕事とお金の奴隷、感情の奴隷、運命と過去の奴隷、罪と死の奴隷、そしてサタンの奴隷のなってしまうのです。しかし、私たちが神を信じて、自分が神の代理人であることを悟り、神から与えられた人生の目的を知るときに、私たちはその本来の使命を回復することができます。あなたが神に従うとき、あなたは神の力と権威を受けて、神と共にこの世を治めるようになるのです。・・・温度計は、周りの気温に影響されて上がったり下がったりします。しかしエアコンは、周りに影響を与えて、周りが暑いときには涼しくし、寒いときには暖かくします。温度計のように、周りの影響を受けて翻弄される人もいれば、エアコンのように、周りに影響を与えて状況を良くしていく人もいます。神の使命を知る人は、エアコンのように、状況を変えていきます。問題が起きても、それを解決する知恵と力が与えられます。困難が目の前にあっても、それを乗り越える希望と挑戦力と忍耐力がわいてきます。逆境に負けず、あきらめないうで努力して、人生を勝利する人となります。周りが沈んで暗くなっているとき、それを明るく積極的に肯定的な気持ちに変える影響力があります。あなたが神を信じるときに、あなたがいる所が、あなたによって変えられて、あなたによってそこが祝福されるのです。あなたは温度計ですか？それともエアコンですか？状況に支配される人ですか？それとも状況を支配する人ですか？神を信じて、神があなたを造られた本来の目的と使命に従って、生きていきましょう。神はあなたを通して、この世界を正しく治め、祝福して下さい。

7、神は、お造りになったすべてのものを見て、どのように思いましたか？

（創1：31）神はご自分が造ったすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かった。

（解説） 神は全ての被造物を見て「非常に良い」と言いました。神の目で見ると、人間は本来良いものでした。しかし人間は神に背いて罪人となってしまったので、神の視点で見るのではなく、他の視点、他の基準で人間を見るようになりました。お金があるかないか、学歴があるか、職業は何か、顔がきれいか、スタイルがいいか、どの民族か、などなど……。そして自分で自分のことを悪く見て、他人の目をいつも気にして、セルフ・イメージが低く、劣等感にしばられるようになりました。しかし、神を信じて、イエス・キリストの十字架によって罪が赦された人は、この視点が変わられます。神の視点から見れば、もう罪人ではなく、義人として認められます。神の目で見ると、あなたは非常に良い人、高価で尊い人、大切な人、愛らしい、美しい人、すばらしい人です！信じますか？……この神の視点を知るとき、私たちの世界観が変わられます。まずは、自分自身の価値を正しく知り、誇りを持って生きようになります。もう他人の評価を恐れなくなり、人間関係の縛りから解放されます。あなたを造られた神があなたを「非常に良い」と言っているなら、他の人が何と言おうと、関係ないではありませんか。そしてあなたも、他の人を神の視点で見るとき、全ての偏見を捨てて、他の人を大切にできるようになります。「私は神に愛されている。だから私も他の人を愛していこう」と思うように変えられるのです。あなたの見方が変われば、考え方が変わり、行動も変わります。そしてあなたの人生も美しく変えられるのです。あなたがこの神を信じて、人生観と世界観が変わられて、生きる意味と目的を知ることができますように。

8、あなたは今、なぜこの世に生きているのですか？

（解説） 最後の質問は、適用の質問です。参加者一人一人に聞いて、今日の聖書のことばが今の自分の生活にどんな意味があるのか、具体的に考えるように導いて下さい。

2章

人はなぜ苦しみに会うのですか？（創世記 2, 3 章）

まず、創世記の 2 章と 3 章全部を読みましょう。その後で、以下の質問に答えて下さい。

1、神は人にどのように命じましたか？

（創 2：16, 17）神である主は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのままに食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

（解説）神は人に「善悪の知識の木からは、食べてはならない」と命令しました。「その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ」と警告しました。神の命令、警告は、人間を守るために、前もって告げたものです。従う者は守られ、祝福されますが、従わない者は苦しみ、のろい、破滅、そして死を招きます。神の命令は、軽く考えて無視することができません。だから聖書のみことばは、私たちの人生にとって非常に大切な意味があるのです。

2、蛇（サタン）は女をどのように誘惑しましたか？

（創 3：1-5）さて蛇は、神である主が造られた野の生き物のうちで、ほかのどれよりも賢かった。蛇は女に言った。「園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。」女は蛇に言った。「私たちは園の木の実を食べてもよいのです。しかし、園の中央にある木の实については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と神は仰せられました。すると、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです。」

（解説）この蛇は、サタンです。彼は以前、神に仕える天使たちの長でした。しかし、傲慢になって、神のようになろうとしたので、天から追放されて墮落しました。彼につき従っていた天使たちの一部も、一緒に地に突き落とされました。これが、サタンと悪魔たちの起源です。このサタンは蛇の形を取って、女を誘惑しました。蛇は女にまず「園の木のどれからも食べてはならない、と神は本当に言われたのですか？」と言いました。しかし神が以前言ったのはこうでした。「あなたは園のどの木からでも思いのままに食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。」その後蛇は「決して死にません」と言いました。しかし神が以前言ったのはこうでした。「あなたは必ず死ぬ。」サタンは「偽りの父」です。サタンは神のみことばを変えて利用します。まるで神が良くない方であるかのように言うのです。そして「あなたがたは神のようになれる」と甘い言葉を言って、傲慢にさせます。サタンは今日でも私たちの心の中にウソをささやいて、罪を犯すように誘惑しているのです。

3、女はサタンの誘惑にどう対応しましたか？

(創3:3) しかし、園の中央にある木の実については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と神は仰せられました。

(創3:6) そこで女が見ると、その木は食べるのに良さそうで、目に慕わしく、またその木は賢くしてくれそうで好ましかった。それで、女はその実を取って食べ、ともにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

(解説) 女は蛇の質問に対して「それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ」と答えました。神のみことば、命令を正確に、正しくはっきりとは知りませんでした。だからサタンの誘惑に対して勝つことができなかったのです。神の御声よりもサタンの声を聞きました。その後その木を目で見ると、欲しくなりました。そして最後にはそれを取って食べてしまったのです。私たちはサタンと議論してはいけません。サタンの声を、最初から拒絶しなければなりません。罪に誘惑されそうな物があつたら、それを見ないで、その近くにも行かずに、避けるべきなのです。

4、人間が罪を犯した結果、どうになりましたか？

(創3:7, 8) こうして、ふたりの目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った。そよ風の吹くころ、彼らは、神である主が園を歩き回られる音を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。

(解説) 人は罪を犯してから、自分自身を恥ずかしいと思うようになりました。罪の罰を恐れるようになりました。だから身を隠して、神の御顔を避けました。神のかたちとして、非常に良いものとして造られたはずの人間は、この罪のせいで、自分を悪いものと思うようになりました。罪のために、神との関係が断絶されてしまったのです。祝福のもとである神から離れたので、祝福の全てを失ってしまったのです。

(創3:12, 13) 人は言った。「私のそばにいろようにとあなたが与えてくださったこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」神である主は女に言われた。「あなたは何ということをしたのか。」女は言った。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べました。」

(解説) 人は女のせいだと言い、女は蛇のせいだと言いました。自分の罪を正直に告白せずに、他人の罪のせいだと言い訳して、責任転嫁したのです。このときから夫婦げんかが始まりました。「私が間違えました。ごめんなさい。赦して下さい」と言ったら、どんなに良いでしょう。しかし、そう言おうとしないので、けんかをやめることができないのです。

(創3:16) 女にはこう言われた。「わたしは、あなたの苦しみとうめきを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。また、あなたは夫を恋い慕うが、彼はあなたを支配することになる。」

（解説） 女は子を産むとき、大きな苦しみを受けます。その上、夫の支配下で苦しめられるようになります。今日でも世の中の多くの女性たちは、この夫婦関係がうまくいかなくて、いつも悩み苦しんでいます。独身女性であっても、その悩みのほとんどは男性のことです。神との関係がうまくいかないならば、夫との関係もうまくいかなくなってしまうのです。

（創 3：17－19） また、人に言われた。「あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」

（解説） 男は一生苦しんで、食を得るために、顔に汗を流して働かなければなりません。今日でも世の中の多くの男性たちは、仕事のことで悩み苦しんでいます。どんなに一生懸命働いても、仕事がうまくいきません。神の前に罪を犯してから、仕事はのろいとなってしまいました。そしてついには、人は死んで土に帰ります。地上で生きている間、たくさん苦しんでばかりで、死んでからも地獄に行かなければなりません。この死と地獄こそが、人間が受けなければならない最悪ののろいなのです。

5、神は人間のために何を与えましたか？

（創 3：15） わたしは敵意を、おまえと女の間、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。

（創 3：21） 神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作って彼らに着せられた。

（解説） 「女の子孫」というのは、処女から生まれた救い主、イエス・キリストのことを指しています。イエス・キリストが十字架の上で死なれたとき、蛇（サタン）はイエスのかかとを打ちました。しかしイエスは三日目に復活して、サタンの頭を踏み砕き、完全に勝利したのです。「皮の衣」というのは、ほふられた子羊、イエス・キリストの贖いの死を意味しています。そのイエスのささげられたいけにえ、流された血潮によって、私たちの全ての罪は赦されて、きよめられました。私たちの罪の恥を、その「皮の衣」であるキリストによって、おおって下さったのです。この救い主イエス・キリストを信じて受け入れる者は全て、救われます。キリストが勝利したように、私たちもキリストと共に、罪と苦しみ、のろい、死、そしてサタンに勝利することができます。このイエス・キリストだけが、私たちを人生の苦しみから救うことができる方なのです。

6、あなたはなぜ苦しみに会うのですか？その苦しみから救われるには、どうしたらいいですか？

（解説） 最後の質問は、適用の質問です。参加者一人一人に聞いて、今日の聖書のことばが今の自分の生活にどんな意味があるのか、具体的に考えるように導いて下さい。

3章

イエスは誰ですか？（ヨハネ 1 章）

まず、新約聖書の 4 番目にある、ヨハネの福音書の 1 章 1 節から 18 節までを読みましょう。その後で、以下の質問に答えて下さい。

1、「ことば」とは、誰のことですか？

（ヨハネ 1：1，2）初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。

（解説）「ことば」とは、イエス・キリストのことです。イエス・キリストは、父なる神様のひとり子です。そのひとり子なるイエス様は、初めからおられる方、つまり永遠に存在しておられる方です。天地万物を創造される以前から、父なる神様と共におられた方です。この「ことば」であるイエス様は、神であられる方です。だから、イエス様をただの普通の人間だと考えてはいけません。ただの教祖、宗教指導者、偉大な教師なのではありません。彼はまことなる神なのです。

2、この方（イエス様）は、どんな方ですか？

（ヨハネ 1：3-5）すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。

（解説）イエス様は全てのものを造られた方です。父なる神様と共に、この宇宙全体を創造された方です。父なる神様が「光、あれ」と仰せられると、光ができました。その仰せ、ご命令、みことばが、御子なるイエス様なのです。この方、イエス様に永遠のいのちがあります。このイエス様は人の光です。イエス様の光は闇（サタンの力）に打ち勝ちます。真っ暗な部屋で小さな火をともしと、闇の中で輝いて、部屋全体を明るく照らします。そのように、たとえあなたの心の中に暗闇の力、サタンの支配があっても、イエス様があなたの心に入ると、心の中全体を照らして、サタンに勝利して下さるのです。

3、ヨハネは何のために来ましたか？

（ヨハネ 1：6，7）神から遣わされた一人の人が現れた。その名はヨハネであった。この人は証しのために来た。光について証しするためであり、彼によってすべての人が信じるためであった。

（解説）このヨハネは「バプテスマのヨハネ」と呼ばれています。ヨハネの福音書を書いた使徒ヨハネ

とは別の人です。このバプテスマのヨハネは、光であるイエス・キリストについて証しするために来ました。全ての人がこのヨハネによってイエス様を信じるために、ヨハネは世に来たのです。この目的のために、ヨハネは神から遣わされたのです。ヨハネは自分の人生の目的をはっきり知っていました。彼は神から遣わされた者、神の御国の大使でした。彼はイエス様を証しするために、この世に生まれて来たのです。……あなたは何のために、この世に来ましたか？あなたは自分の人生の目的をはっきり知っていますか？あなたもヨハネのように、光であるイエス様を証しするために、あなたによって人々がイエス様を信じるように、神があなたを世に遣わしたのです。

4、イエス様を受け入れた人々には、どんな特権が与えられますか？

(ヨハネ 1 : 12) しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。

(解説) イエス様を受け入れた人は、神の子どもとなる特権を与えられます。その特権は、とても大きな特権です。以前はサタンの子だったので、罪と死とのろいの奴隷でした。でもイエス様を信じて受け入れてからは、この全世界の王である神の子ども、王子王女となったのです。つまり階級が全く変わってしまったのです。父が持っている物全ては、その子どもが所有しているのと同じです。父の権威がそのまま子どもの権威となります。父なる神様は、いつも私たちの祈りに耳を傾けてくれます。子どもである私たちのために、いつも責任を持って養って下さいます。赤ちゃんのときは、自分に王子王女の特権があるということを知りません。でも成長して大きくなってくると、その特権を知って使えるようになってきます。……あなたは神の子どもとしての特権がどんなに大きいものか、知っていますか？その特権を使っていますか？もし特権を持っているのに使わなかったら、何とものったいないことでしょう！王子王女として王宮に住んでいながら、こじきのように生活してはいけません。神の王子王女らしく、堂々と生きていきましょう。

5、神の子どもとされる人々は、どのように生まれますか？

(ヨハネ 1 : 13) この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。

(解説) 神の子どもとなる、クリスチャンになるということは、血によって生まれるものではありません。例えば、自分の親がクリスチャンだから自分もクリスチャンである、というものではありません。肉の望むところによってでもありません。例えば、クリスチャンになったらお金がもらえる、仕事を得心、社会的に利益がある、などと思ってクリスチャンになるものではありません。また人の意志によってでもありません。例えば、良い行い、努力、教会の礼拝に参加することなどによってクリスチャンになるものではありません。クリスチャンとは、神によって生まれるものです。イエス・キリストを信じて受け入れることによってのみ、新しく生まれることができるのです。

6、イエス様はどのようにして、私たちの間に住まわれましたか？

(ヨハネ 1：14) ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

(解説) 「ことば」である神のひとり子は、人となって私たちの間に住まわれました。今から約2千年前に、人間となってこの世に下って来たのです。その方こそが、イエス・キリストです。神である方が、人間の一人となって、この世に生まれて来たのです。人間は神となることはできません。しかし、神は人間となることができます。だからイエス様は、100%神でありながら100%人間なのです。罪人である人間を救うために、天の御座を捨てて、自ら人間となって、この世に来られました。だからイエス様は恵みとまことに満ちておられる方なのです。

7、どうすれば神を知ることができますか？

(ヨハネ 1：18) いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。

(ヨハネ 17：3) 永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです。

(解説) 今だかつて、神を見た者はいません。ではどうしたら、神を知ることができるのでしょうか？父なる神のふところにおられるひとり子の神、イエス・キリストが、神を説き明かされたのです。だからイエス様を知るなら、神を知ることができます。イエス様を信じるなら、神様と出会えるのです。永遠のいのちとは、イエス・キリストを知ることです。みことばを通してイエス様が誰なのかをもっと深く知るならば、神様ともっと親しくなることができます。神様への信仰ももっと成長します。キリストの似姿へとさらに変えられていきます。神様のすばらしさをもっと深く体験するようになります。イエス様を知る、ということは、人生の最後まで成長し続けて、天国に着いたときに、主を完全に知ることになります。この道のりを「救い」というのです。イエス様を信じた後も、救いとは何かをさらに深く知っていくのです。だから私たちは、このイエス様をもっと知って、救いをもっと体験していきましょう。

8、あなたにとって、イエス様はどんなかたですか？

(解説) 最後の質問は、適用の質問です。参加者一人一人に聞いて、今日の聖書のことばが今の自分の生活にどんな意味があるのか、具体的に考えるように導いて下さい。

4章

あなたの主人は誰ですか？（ヨハネ 2 章）

まず、ヨハネ 2：1－11 を読みましょう。その後で、以下の質問に答えて下さい。

1、ぶどう酒がなくなったとき、イエスの母はなぜ、イエスに向かってそれを言ったのですか？

（ヨハネ 2：3）ぶどう酒がなくなると、母はイエスに向かって「ぶどう酒がありません」と言った。

（解説） 婚礼でぶどう酒がなくなったとき、普通だったら宴会の世話役にその事を言うものです。しかしイエスの母マリアは、世話役にではなく、ただの客の一人であるイエスに、その事を言ったのです。なぜでしょうか？マリアは「イエスが誰なのか」を良く知っていました。イエスは聖霊によって身ごもって生まれた神の御子、世の救い主、全能なる方、どんな問題でも解決できる方である、と知って信じていたのです。だから他の人ではなく、イエスを頼ったのです。あなたは問題にぶつかったとき、誰に頼りますか？人ですか？それとも主なる神ですか？「主イエスが誰なのか」を良く知っているなら、人よりも主を頼るようになります。

2、手伝いの人たちは、イエスの命令に対して、どのように従いましたか？

（ヨハネ 2：5）母は給仕の者たちに言った。「あの方が言われることは、何でもしてください。」

（ヨハネ 2：7）イエスは給仕の者たちに言われた。「水がめを水でいっぱいになさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。

（解説） マリアは給仕の者たちに「あの方が言われることを何でもしてあげてください」と言いました。その言葉によって、イエスは客ではなくて「主人」となりました。客というのは、もてなしは受けるけど、その家の主人の許可がなければ、何もできません。でも主人はその家の中で、自分の思うとおりにすることができます。イエスはその家で客の一人であったときには、何もしませんでした。しかし「主人」となったときから、命令を出したのです。イエスが「水がめを水でいっぱいになさい」と言ったとき、給仕の者たちは、言われた通りに従順しました。「ぶどう酒がないというのに、なぜ水を満たすのか？」とか「彼は世話役でもないのに、なぜ彼の言うことを聞かなければならないのか？」とか「約 100 リットルの水がめを 6 つもいっぱいにするなんて、大変だ」などと不平不満を言いませんでした。自分の考え、自分の方法ではなく、命令されたとおりに 100% 従順して、水がめを縁までいっぱいにしたのです。「99% の従順は、100% の不従順と同じ」です。私たちは 100%、完全に、最後まで、縁いっぱいまで従順する者となりましょう。

3、水がぶどう酒になったことを、誰が知っていましたか？

(ヨハネ 2 : 9) 宴会の世話役は、すでにぶどう酒になっていたその水を味見した。汲んだ給仕の者たちはそれがどこから来たのかを知っていたが、世話役は知らなかった。

(解説) 宴会の世話役は、そのぶどう酒がどこから来たのか、知りませんでした。しかし水を汲んだ給仕の者たちは知っていました。世の中の人たちは、イエスを信じることがどんなに祝福なのかを、全く知りません。しかし、イエス様を信じて主に仕える者だけが、その祝福を知ることができます。主イエスのためにしもべとなって仕えることは、ときには困難なときもあるでしょう。しかし、信仰によって主に従順する者は、人生で大きな奇跡を体験することができるのです。

4、良いぶどう酒は、いつ出されましたか？

(ヨハネ 2 : 10) こう言った。「みな、初めに良いぶどう酒を出して、酔いが回ったところに悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒を今まで取っておきました。」

(解説) 良いぶどう酒は、後で来ました。主は良いものを、後で下さいます。サタンは逆に、まず最初に良いと見えるものを与えます。例えばお金、財産、名誉、世の快樂など……。しかしその後で、そのものによって人を墮落させます。飴のように、最初は甘いけど、後で虫歯になって歯が痛くなります。主が下さるものは、薬のようです。最初は苦いけど、後で病気が治ります。クリスチャン生活は、最初は難しいと思えるかもしれません。しかし後になって、多くの良いものを受けます。だんだん良くなって、最後に一番良いもの、天国を相続するのです。私たちにとって「一番良いもの」は、まだ来ていません。私たちは今の所でとどまっているのではなく、これから将来来るであろう多くの祝福を期待しながら、さらに霊的に成長し、未来に向かって前進していきましょう。

5、イエスはこのしるし（奇跡）を、なぜ行いましたか？

(ヨハネ 2 : 11) イエスはこれを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

(解説) イエス様はこの奇跡を、世話役の必要のためや、花婿の満足のために見せたものではありません。主ご自身の栄光を現すため、それによって弟子たちがイエス様を信じるために、奇跡を起こしたのです。主は今日でも奇跡を行うことができます。しかし、私たちの自己中心的な願いを満足させるために、奇跡を行うものではありません。その奇跡によって主の栄光を現して、私たちがもっとイエス様を信じて拠り頼む者となるように、それを行うのです。それによって私たちが主イエスのすばらしさをさらに体験して、主をさらに愛する者となるように、主にさらに従う者となること、それが主の奇跡の目的です。イエス様は私たちのしもべではありません。イエス様を自分の満足のために使おうと思っはなりません。またイエス様は私たちの客でもありません。たとえイエス様を信じて心に受け入れても、主人ではなくて客だったら、人生に何の変化も起こりません。イエス様をあなたの主人としましょう。イエス様の

しもべとなりなさい。あなたの人生の全てを主イエスにささげなさい。そのときにこそ、あなたは奇跡を体験します。水がぶどう酒に変わったように、あなたの人生は全く変わります。あなたが神を使うのではなく、神があなたを使うようになるのです。神はあなたを通して、ご自身の栄光を現して下さいます。

6、イエスはあなたのお客ですか？手伝い人ですか？それとも主人ですか？

（解説）最後の質問は、適用の質問です。参加者一人一人に聞いて、今日の聖書のことばが今の自分の生活にどんな意味があるのか、具体的に考えるように導いて下さい。

5章

どうすれば天国に入れますか？（ヨハネ 3 章）

まずヨハネ 3：1-21 を読みましょう。その後で、以下の質問に答えて下さい。

1、ニコデモは、イエスのことを本当に知っていましたか？

（ヨハネ 3：1, 2）さて、パリサイ人の一人で、ニコデモという名の人がいた。ユダヤ人の議員であった。この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられなければ、あなたがなさっているこのようなしるしは、だれも行うことができません。」

（解説）ニコデモはパリサイ人で、ユダヤ人の議員、教師でした。神や聖書について良く知っている人でした。なので、イエスが誰であるかについても「知っています」と言いました。しかし、彼は実際には何も知っていませんでした。神の国に入れる確信もありませんでした。律法をちゃんと守っていましたが、心に平安がありませんでした。宗教指導者でしたが、真理を悟ってはいませんでした。だからこそ、イエス様のところに來たのです。ただし、他の人に知られると恥ずかしいので、人の目を避けて、夜の時間に来ました。「私は知っている」という傲慢な心を捨てて、「私はまだ何もわかっていません。どうか教えて下さい」という謙遜な心でイエス様のところに来る人は、祝福されます。

2、「新しく生まれる」とは何ですか？

（ヨハネ 3：3-8）イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」ニコデモはイエスに言った。「人は、老いていながら、どうやって生まれることができますか。もう一度、母の胎に入って生まれることなどできるのでしょうか。」イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思ってはなりません。風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのか分かりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

（ローマ 8：9）しかし、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉のうちにではなく、御霊のうちにいるのです。もし、キリストの御霊を持っていない人がいれば、その人はキリストのものではありません。

（解説）人は、もう一度母の胎に入って生まれることはできません。肉によって生まれた者は、御霊のことを理解できません。しかし、イエスを信じて受け入れた人の中には「キリストの御霊」が内住しま

す。この聖霊を体験するとき、新しい人となり、人生が変えられるのです。この体験を「新しく生まれる」と言っているのです。風は目に見えないし、どこから来てどこへ行くのか分かりません。でも、風は確かに存在するし、その音も聞こえます。そのように、御霊によって生まれる者、聖霊を体験した人も、その人自身がはっきりとわかります。イエスを信じて変えられるスタイルは、人によってみんな違います。ある人は劇的に、またある人は静かにゆっくりと感じます。でも、生きておられる主イエスの愛を感じて、人生が変えられた体験は、確かにあるのです。救いの確信を持って喜びにあふれた体験がそれです。そのように、新しく生まれた人は、神の国を見ることができるようなのです。

3、天上のことは、誰が話すことができますか？

（ヨハネ 3：11－13）まことに、まことに、あなたに言います。わたしたちは知っていることを話し、見たことを証ししているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れません。わたしはあなたがたに地上のことを話しましたが、あなたがたは信じません。それなら、天上のことを話して、どうして信じるでしょうか。だれも天に上った者はいません。しかし天から下って来た者、人の子は別です。

（解説） 天に上ったことがある人は誰もいません。天上のことは、天から下って来た人の子、イエス・キリストだけが話すことができます。世の中の色々な宗教はみんな、人間の空想、人間の考え出した作り話、人間の頭から出てきた思想にすぎません。しかしイエス・キリストは、天上で自分自身が見たことを証ししているのです。だからこそ、その証しは真理だと言えるのです。

4、「人の子も上げられなければならない」とは、何の意味ですか？

（ヨハネ 3：14、15）モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。

（民数記 21：9）モーセは一つの青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上に付けた。蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぎ見ると生きた。

（解説） この話は、旧約聖書の民数記の中に書いてある実話です。ニコデモは旧約聖書を良く知っているので、イエス様はその聖書の話をとえとして使って、説明したのです。モーセの時代、イスラエルの民は荒野で蛇にかまれて、多くの人々が死にました。そのとき神はモーセに、青銅の蛇を作らせ、それを旗ざおの上に付けさせました。蛇にかまれた人がその青銅の蛇を仰ぎ見ると、生きることができました。自分の方法、努力によって薬で治療しようとした人は、何の効果もなく死にました。救いも、それと同じようなものです。十字架の上につけられて死なれたイエスを仰ぎ見る者は、生きるのです。たましいの救いを得るために、自分なりの方法、良い行いでどんなに努力しても、全く効果がありません。必要なことはただ一つ、イエスを信仰によって仰ぎ見ること、それだけです。他に何もありません。難しいことも、複雑なこともありません。本当に簡単で、単純なこと、誰でもできることです。難しい方法だったら、誰も救いを得ることはできなかったでしょう。しかし神は私たちが救われるために、誰にでもできる方法を備えて下さいました。この道だけが、神が下さった唯一の救いの道です。この救い主

イエス・キリストを信じて仰ぎ見る者は、永遠のいのちを得るのです。

5、どうすれば永遠のいのちを持つことができますか？

（ヨハネ 3：16, 17）神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。

（解説）神の御子イエス・キリストを信じる者は、永遠のいのちを得て、天国に入れます。なぜなら、イエスが十字架の上で自分から命を捨てて、私たちの罪の代価を代わりに支払って下さったからです。そのイエスのみわざを信頼して受け入れるなら、罪が赦されるので、地獄で滅びることなく、永遠のいのち、つまり天国を手に入れることができます。これを「救い」と言うのです。そのように聖書に書いてあるので、そのことば、神の約束をそのまま信頼するのです。必要なのは、それだけです。他にしなければならないことは、何もありません。例えば、市役所から「今日お米を一人一袋無料で支給するので、受け取りに来て下さい」という知らせを聞いたとします。その「良い知らせ」を信じた人は、市役所に行って、ただで受け取ります。でも「そんなことがあるわけない」と疑って信じなかった人は、行かないので、受け取ることができません。お米を得るために、何か努力して仕事してお金を払ったのではありません。「市役所でただでもらえる」という言葉を信じて行っただけで、それを得たのです。信仰とは、そのようなものです。信仰とは、信頼できる方のことばを信じて頼って、それを確信して平安を得ることです。イエス・キリストの救いのみことばは、真実なことば、信頼するに値する、確実な神の約束なのです。

6、あなたがもし今死んでも、天国に行けると確信していますか？

（解説）この質問を、参加者一人一人に聞いて下さい。答えは以下の3つの中のどれかです。

（1） はい、私はイエス・キリストを信じたので、今死んでも天国に行けると確信します。

（2） いいえ、私はイエス・キリストを信じていないので、このままでは天国に行けません。

（3） 私はまだよくわかりません。

・・・まだ決心ができない人を、決して急がせないで下さい。人それぞれのペースというものがあります。学びを進めていくうちに、だんだんとわかってくるものです。祈りながら、焦らずにゆっくりと待つてあげて下さい。主の時になって、聖霊があなたと参加者の心の中に直接働きかけて、救いへと導いて下さいますように。

6章

どうやって礼拝しますか？（ヨハネ 4 章）

まずヨハネ 4：1－30 を読みましょう。その後で、以下の質問に答えて下さい。

1、イエスが与える水とは、どんな水ですか？

（ヨハネ 4：13，14）イエスは答えられた。「この水を飲む人はみな、また渴きます。しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」

（ヨハネ 7：37－39）「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れるようになります。」イエスは、ご自分を信じる者が受けることになる御霊について、こう言われたのである。

（解説） この世の水は、一度飲んでも、また渴きます。「この世の水」とは、例えば人間の愛、お金、学問知識、名誉、快樂などのことです。この世のものは、どんなに沢山得たとしても、もっと欲しくなります。なので、いくら得ても満足できません。しかし、イエス様が与える生ける水を飲む者は、決して渴くことはありません。「生ける水」とは、永遠のいのちを与えるイエス・キリストの救い、愛、喜び、平安のことです。イエス様を信じて拠り頼む者は、御霊によってその生ける水が心の奥底から泉のようにわき出て、それをいつも飲むことができます。イエス様だけが私たちに本当に満足を与えることのできる方です。

2、イエスは女に、なぜ夫を呼んで来るように言いましたか？

（ヨハネ 4：16－18）イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」彼女は答えた。「私には夫がいません。」イエスは言われた。「自分には夫がいない、と言ったのは、そのとおりです。あなたには夫が 5 人いましたが、今一緒にいるのは夫ではないのですから。あなたの本当のことを言いました。」

（解説） そのサマリアの女は、以前夫が 5 人いました。今一緒にいる男も、本当の夫ではありません。つまり、夫婦関係が良くなかったのです。夫をどんなに取り換えても、ちっともうまくいきません。他の人の前にも、恥ずかしいことです。このような問題は、誰にも知られたくありません。しかしイエス様は、私たちの隠れている問題の全てを知っておられるお方です。ただ知っているだけでなく、その問題を解決してあげたいと思っています。なので、彼女に「夫を呼んで来なさい」と言って、その問題を明らかに示しました。イエス様は私たちの霊の医者です。問題を見せないで隠していたら、治療することができません。あなたの心の奥にある傷や、誰にも言えない深い問題を、イエス様に見せて下さい。

イエス様はあなたの心の傷をいやして下さいます。

3、女は以前、どのように礼拝していましたか？

(ヨハネ 4：20-21)「私たちの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」イエスは彼女に言われた。「女の人よ、わたしを信じなさい。この山でもなく、エルサレムでもないところで、あなたがたが父を礼拝する時が来ます。」

(解説) イエス様がその女の一番痛い傷にふれたとき、女はすぐにその話題を変えてしまいました。本当の問題を隠すために、「宗教論争」を始めたのです。サマリア人とユダヤ人の小さな教理の違いを言って、どちらが正しいかと質問をぶつけました。(今日でも、自分の心の奥の本当の問題は隠したまま言わないで、宗教論争を仕掛ける人が多くいます。) その女は、宗教の儀式、礼拝の場所や形式のような、表面上のことだけしか知りませんでした。先祖や親たちから伝えられた伝統や習慣の通りに礼拝して、その教えだけが正しいと信じ込んでいたのです。しかし彼女は、自分で何を拝んでいるのか知らないで礼拝しています。宗教上の儀式だけによってどんなに頑張っても、問題を解決することはできません。何の益もなく、意味もなく、答えもなく、ただ疲れるだけです。……女の質問に対して、イエス様は「この山か、エルサレムか」を答えませんでした。そうではなくて、礼拝の「本質」を明らかにしたのです。それは「私たちは誰を礼拝するのか」ということです。私たちはイエス様によって救いを得て、父なる神を礼拝しなければなりません。

4、「御霊と真理によって礼拝する」とはどういう意味ですか？

(ヨハネ 4：23, 24) しかし、まことの礼拝者たちが、御霊と真理によって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として求めておられるのです。神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。

(解説) 神は霊なので、人間の目には見えません。しかし今もこの場所に私たちと共にいます。だから、私たちは肉体的な思い、ただのプログラム、表面だけの形式で礼拝してはいけません。人間の中にも霊はありますが、罪によってそれが死んでいる状態です。しかしイエス様を信じる者の内には、聖霊が宿るようになり、霊が生きます。その聖霊によって、霊である神と交わりを持つことができるのです。「御霊によって礼拝する」というのは、この聖霊に満たされて、聖霊の導きに従って、聖霊の力によって、心を尽くして神と交わることです。では「真理によって礼拝する」というのは、どういう意味でしょうか？ 真理とは、イエス・キリストと、そのみことばのことです。礼拝は、自分の好き勝手にささげるものではありません。真理なるイエス・キリストの血潮によってのみ、まことの至聖所におられる天の父なる神と出会えるのです。そして、聖書の真理のみことばによって明らかに示された、イエス・キリストによる救いの道に従って、日々神の喜ばれる生きた供え物をささげなければなりません。御霊に満たされて、真理のみことばに従った生活をささげること、それが礼拝です。そのような心の態度、行動によって、神と共に毎日毎瞬間を生きる人生全部のことを「御霊と真理によって礼拝する」と表現しているの

です。礼拝とはプログラムではなくて、生活そのものです。

5、誰が一切のことを知らせてくれますか？

(ヨハネ 4 : 25, 26) 女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。その方が来られるとき、一切のことを私たちに知らせてくださるでしょう。」イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

(ヨハネ 14 : 6) イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」

(解説) イエス様こそが、その来たるべきメシア、キリスト、救い主です。イエス・キリストだけが、私たちに一切のことを知らせて下さる方です。私たちはこのイエス様を通してのみ、父なる神のみもとに来ることができます。イエス様だけが「本当の神は誰か」を示すことができます。イエス様の血潮によってのみ、私たちは至聖所に入ることができます。まことの礼拝とは、イエス・キリストによって父なる神と交わることです。今もイエス様は、聖書のみことばを通して、あなたの心に語りかけています。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」このメシアなるイエス様の御声を聞いて、礼拝をささげて下さい。

6、イエスに出会った後、その女の人生はどのように変わりましたか？

(ヨハネ 4 : 28-30) 彼女は、自分の水がめを置いたまま町へ行き、人々に言った。「来て、見てください。私がしたことを、すべて私に話した人がいます。もしかすると、この方がキリストなのではないでしょうか。」そこで、人々は町を出て、イエスのもとにやって来た。

(ヨハネ 4 : 39) さて、その町の多くのサマリア人が、「あの方は、私がしたことをすべて私に話した」と証言した女のことばによって、イエスを信じた。

(ヨハネ 8 : 32) あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。

(解説) このサマリアの女は、以前は夫婦問題のゆえに人前に出るのも恥ずかしがるような人でした。しかし、真理なるイエス・キリストに出会ってからは、自由になりました。恥や恐れ、罪の束縛から全く解放されました。心の奥底から、イエス様の生ける水があふれ出て来たのです。だから、彼女は自分の水がめを置いて、すぐに町へ行って人々に対して、少しも恥ずかしがらないで大胆に、イエス様のことを言いました。「もしかすると、この方がキリストなのではないでしょうか？」と言っているのです。キリストのことをはっきりと理解していたわけでもありません。しかし、イエス様と出会って、心で何かを「体験」したので、話さずにはいられなかったのです。この女の証しによって、その町のサマリア人の多くの者が、イエス様を信じました。この女の人生は、全く変えられてしまいました。真理が彼女を自由にしたのです。以前は罪と恥、破壊と絶望の人生だったのに、今は愛と喜び、平安と勝利、確信に満ちた人生、キリストの証人、神に用いられる人となったのです。何てすばらしいことでしょう。ハレルヤ！！

7、あなたは誰を、どのように礼拝しますか？

（解説）最後の質問は、適用の質問です。参加者一人一人に聞いて、今日の聖書のことばが今の自分の生活にどんな意味があるのか、具体的に考えるように導いて下さい。

7章

イエスはなぜ死んだのですか？（ヨハネ 19 章）

まずヨハネ 19 章全部を読みましょう。その後で、以下の質問に答えて下さい。

1、イエスはどのような苦しみを受けましたか？

（ヨハネ 19：1-3）それでピラトは、イエスを捕らえてむちで打った。兵士たちは、茨で冠を編んでイエスの頭にかぶらせ、紫色の衣を着せた。彼らはイエスに近寄り、「ユダヤ人の王様、万歳」と言って、顔を平手でたたいた。

（解説）イエス様は捕らえられて、むちで打たれました。1, 2 回打たれたのではなく、40 回も打たれたのです。その後、兵士たちはイエス様をからかって、顔を平手でたたきました。つばをかけて、あざ笑いました。……想像して、考えてみて下さい。どんなに痛かったでしょう。肉体的にだけでなく、精神的にもどんなに心痛かったでしょう。この世界の王の王であるお方が、どうしてこのようなひどい苦しみを受けなければならないのでしょうか。誰のために、この苦しみを受けたのでしょうか。……それは、あなたと私のためです。私たちを罪と地獄から救うために、イエス様が身代わりとなって罪の罰を受けたのです。イエス様の下さった救いとは、簡単に与えられたものではありません。大きな犠牲、代価を支払って、私たちに与えられたものなのです。イエス様に対して、どんなに申し訳ないことでしょう。私たちは、そのイエス様の大きな犠牲を無駄にしてはいけません。イエス様を信じて、その救いの恵みを受け取らなければなりません。

2、イエスに罪を見つけることができますか？

（ヨハネ 19：6）ピラトは彼らに言った。「おまえたちがこの人を引き取り、十字架につけよ。私にはこの人に罪を見出せない。」

（Ⅰペテロ 2：22-24）キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。ののしられて

も、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、正しくさばかれる方にお任せになった。キリストは自ら、十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒された。

（解説） 総督ピラトでさえ、イエス様について「この人に罪を見出せない」と言いました。それなら、どうしてイエス様は罰を受けたのでしょうか？本当であれば、罪のある私たちが罰を受けなければならないはずですが、そのような罪人である私たちを救うために、罪の一つもないイエス様が、私たちのために死なれて、私たちの罪の借金を代わりに全部支払って下さったのです。十字架の上で流されたイエス様の血潮によって、私たちは罪のきよめ、完全な赦しを受けたのです。だから、そのイエス様の救いを信じて受け入れた人は誰でも、地獄に行かないで天国に行くことができます。これが十字架の奥義なのです。

3、ピラトはなぜ、イエスに死刑判決を下しましたか？

（ヨハネ 19：12, 13）ピラトはイエスを釈放しようと努力したがユダヤ人たちは激しく叫んだ。「この人を釈放するのなら、あなたはカエサルの友ではありません。自分を王とする者はみな、カエサルに背いています。」ピラトは、これらのことばを聞いて、イエスを外に連れ出し、敷石、ヘブル語でガバタと呼ばれる場所で、裁判の席に着いた。

（ヨハネ 12：42, 43）しかし、それにもかかわらず、議員たちの中にもイエスを信じた者が多くいた。ただ、会堂から追放されないように、パリサイ人たちを気にして、告白しなかった。彼らは、神からの栄誉よりも、人からの栄誉を愛したのである。

（解説） ピラトは、イエス様には何の罪もないことを知っていました。ユダヤ人たちがねたみからイエス様を引き渡したことを知っていました（マタイ 27：18）。しかし群衆の言葉を聞いたとき、ピラトは恐れました。「この人を釈放するのなら、あなたはカエサルの友ではありません」という言葉を聞いたとき、ピラトは自分の地位を失うのではないかと心配しました。彼は、神からの栄誉よりも、人からの栄誉を愛したのです。周りの人間関係を恐れると、人は正しい判断を下せなくなります。神よりも人を恐れるなら、神のさばきを受けなければなりません。私たちは、人の言葉よりも、神のことばに従うべきです（使徒 5：29）。神様だけを恐れる人は、周りの人々がどう見るかを恐れずに、勇気を持って選択できるようになります。

4、聖書のことばは、イエスによってどのように成就しましたか？

（ヨハネ 19：24）そのため、彼らは互いに言った。「これは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」これは、「彼らは私の衣服を分け合い、私の衣をくじ引きにします」とある聖書が成就するためであった。（詩 22：18 参照）

（ヨハネ 19：28）それから、イエスはすべてのことが完了したのを知ると、聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。（詩 69：21 参照）

(ヨハネ 19 : 36, 37) これらのことが起こったのは、「彼の骨は、一つも折られることはない」とある聖書が成就するためであり、また聖書の別のところで、「彼らは自分たちが突き刺した方を仰ぎ見る」と言われているからである。(詩 34 : 20、ゼカリヤ 12 : 10 参照)

(黙示録 1 : 7) 見よ、その方は雲とともに来られる。すべての目が彼を見る。彼を突き刺した者たちでさえも。地のすべての部族は、彼のゆえに胸をたたいて悲しむ。

(解説) 聖書は過去のことだけではなく、未来のことも預言して啓示しています。旧約聖書の中で、救い主メシアについてたくさん書かれています。その預言はイエス・キリストにおいて全部成就しています。だからイエス様は、約束の預言の通りに来られた本当の救い主であると言えます。今から将来においても、聖書の預言は成就していきます。終わりの日に地の全ての部族は、主イエスの再臨を自分の目で見ることになります。その日が来る前に、あなたもイエス様を信じなければなりません。

5、イエスはなぜ「完了した」と言われましたか？

(ヨハネ 19 : 30) イエスは酸いぶどう酒を受けると、「完了した」と言われた。そして、頭を垂れて霊をお渡しになった。

(エペソ 2 : 8, 9) この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。

(解説) 「救い」というのは、自分の努力や良い行いによって全くできないときに、他の人の一方的な助けによってのみ救われることを意味します。私たちはどんなに頑張っても、自分の罪を消すことはできません。罪を犯さないように決心しても、またやってしまいます。人間は皆、生まれながらにして罪人です。罪人だから、罪を犯すのです。「良い事をすれば良くなる」と頭で知っていても、実際には良い事をできません。悪い事をするので、悪い所、地獄に行きます。だから、良い行い、宗教行為によって天国に行ける人は、この世の中で一人もいません。だからこそ、救い主が必要なのです。罪人である私たちが全くできないので、救い主イエス・キリストが代わりに全部やって下さいました。イエス様が十字架で私たちの身代わりに死んで下さったことにより、私たちの罪は赦され、天国への道が開かれたのです。これが救いです。この救いみわがが完全に成し遂げられたので、イエス様は死ぬ直前に「完了した」と言ったのです。イエス様が全部 100%やって下さったので、私たちの側ですることは「何も」ありません。0%です。イエス様がして下さったことを、ただで受け取ること、信頼して心に受け入れること、それだけです。私たちはイエス様を信じる信仰によってのみ、救いを得ることができます。救いは神の恵みの賜物、プレゼントなのです。

6、イエスはあなたのために、何をして下さいましたか？

(解説) 最後の質問は、適用の質問です。参加者一人一人に聞いて、今日の聖書のことばが今の自分の生活にどんな意味があるのか、具体的に考えるように導いて下さい。

8章

イエスはなぜ復活しましたか？（ヨハネ 20 章）

まずヨハネ 20 章全部を読みましょう。その後で、以下の質問に答えて下さい。

1、弟子たちはなぜ、聖書を理解していなかったのですか？

（ヨハネ 20：9）彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかった。

（解説） イエス様はご自身が死んだ後よみがえることを、以前から前もって何回も弟子たちに話していました。弟子たちもイエス様の言ったことを、たくさん聞いて知っていました。でも実際に困難な状況に遭うと、そのみことばを全部忘れてしまいました。頭では知っていたけれど、本当には理解していなかったのです。イエス様のみことばよりも、実際の状況のほうを信じたのです。私たちも、口では「イエス様を信じます」と言っているけど、困難や問題にぶつかったとき、聖書のみことばに拠り頼まないとしたら、聖書を理解していないのと同じです。困難によって、本当に信じているのかがテストされるのです。私たちは問題にぶつかったときにこそ、聖書のみことばを思い出して、それをもっと信じて拠り頼むようにしましょう。

2、マグダラのマリアは、なぜ泣いていたのですか？

（ヨハネ 20：14, 15）彼女はこう言ってから、うしろを振り向いた。そして、イエスが立っておられるのを見たが、それがイエスであることが分からなかった。イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」

（解説） マグダラのマリアは、イエス様の遺体を誰かが運び去って行ったと思ったので、泣いていました。主イエスはよみがえられて、今も生きておられて、彼女のすぐそばに共にいることを知りませんでした。私たちも、主イエスが復活して生きておられることを知らずに、マリアのように問題に直面して泣いていることがあります。そのようなときに、主イエスはあなたのそばに立って、こう言われるでしょう。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」私たちの主イエス様は、死からよみがえられた神、今も生きておられる神、問題の真ただ中であなたと共にいて救い出して下さる神です。

3、イエスは弟子たちになぜ、何度も「平安があるように」と言いましたか？

（ヨハネ 20：19-21）その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があ

なたがたにあるように。」こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

（解説） 弟子たちはそのとき、ユダヤ人を恐れて家に隠れていました。自分たちの主が死んでしまったと思っていたので、失望と不安、疑いの中にいました。心に平安が全然ありませんでした。だから主イエスは彼らを力づけるために「平安があるように」と何度も言ったのです。私たちも、心に平安がなかったら何もできません。イエス様だけが私たちに本当の平安を与えることができるお方です。平安さえあるなら、どんなに困難な状況の中にあっても、それを乗り越えることができます。弟子たちは復活した主を見て喜びました。その後から、彼らの人生は変わりました。平安と喜び、確信と勝利を得ました。聖霊の力によって「主イエスは復活した」と大胆に証しする人となったのです。

4、イエスはなぜ、戸が閉じられている所に入ることができましたか？

（ヨハネ 20：26）八日後、弟子たちは再び家の中におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸には鍵がかけられていたが、イエスがやって来て、彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。

（ルカ 24：36－40）これらのことを話していると、イエスご自身が彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。彼らはおびえて震え上がり、幽霊を見ているのだと思った。そこで、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを抱くのですか。わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。幽霊なら肉や骨はありません。見て分かるように、わたしにはあります。」こう言って、イエスは彼らに手と足を見せられた。

（I コリント 15：42－44）死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらされ、卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蒔かれ、力あるものによみがえらされ、血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。

（解説） 主イエスが復活したからだは、幽霊ではありませんでした。触ることができて、肉や骨もありました。手には釘の跡、脇腹にも傷跡がありました。焼いた魚も食べました。しかし、以前のからだとは違いました。新しいからだ、天上のからだとなりました。だから、戸が閉められていたのに入ることができました。主イエスを信じる者も、主イエスの再臨のときには、そのような新しいからだで復活します。以前のからだのように病気にもかかりません。朽ちないからだ、栄光あるからだ、力あるからだ、御霊に属するからだとなるのです。この復活こそが、私たちの人生の希望です。もし死んだ後に復活がないとしたら、人生に意味がありません。「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ、明日は死ぬのだから」（I コリント 15：32）というような生活となってしまいます。もし復活がなければ、私たちの信仰は空しいものです。しかし、主イエスは死からよみがえりました。なので、私たちもよみがえります。（I コリント 15：20－23）主イエスの復活は、主イエスを信じる者が永遠に生きることの「保証」です。私たちが信仰を持って、永遠のいのちを得るために、主イエスはよみがえられたのです。

5、どういう者が幸いですか？

(ヨハネ 20 : 29) イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」

(ヘブル 11 : 1) さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

(解説) イエス様を見ないで信じる人は幸いです。今日でも「神を見ないと信じない」と言っている、トマスのような人がたくさんいます。彼らは、主が下さる祝福を自分の目で見なければ信じないと言っています。しかし信仰とは、目に見えないものを確信させるものです。私たちは、まだ目に見えない復活、最終勝利、永遠の祝福を信じるからこそ、今でも十字架の道、苦しみの道を忍耐して歩むことができるのです。十字架の後には、必ず復活があります。そのような信仰を持っている人は、苦難や問題を乗り越えて勝利できます。人生の問題の中で一番大きな問題は、罪と死です。主イエスは復活によって、罪と死に勝利されました。人間に苦しみと呪いを与えるサタンにも勝利しました。だからイエス様は、人生の全ての問題を解決することができるお方です。その主イエスを信じて拠り頼む人は、主イエスと共に世に勝つのです。勝つ者とは「勝てる」と信じた者です。「勝つのは難しい」と信じている者は、戦う前からもうすでに負けているのです。私たちは主イエスを信じ頼って、最終勝利を獲得しましょう。見ないで信じる人は幸いなのです。

6、この聖書は何のために書かれましたか？

(ヨハネ 20 : 31) これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

(解説) イエス様は救い主、神の御子であることを、あなたが信じて、あなたが永遠のいのちを得るために、この聖書は書かれました。聖書は「あなた」のために書かれたのです。他の目的のためではありません。どんなに聖書の内容を知っていても、自分自身が実際にやらなければ、全く無駄です。他の人のためではなくて、あなた自身が救いを得ることが重要です。あなたが信じて永遠のいのちを得るために、この聖書を読んで下さい。色々な奇跡の中で最大の奇跡は、主イエスの復活です。主イエスの復活を信じることができれば、聖書全部を信じることができます。主イエスの復活を信じた弟子たちは、人生が変えられて、その救いの福音を大胆に宣べ伝える者となりました。復活は「イエスは誰なのか」ということをはっきり現して、あなたが信じるためです。あなたも主イエスを信じれば、永遠のいのちを得て、主の復活を証しする者になるのです。

7、あなたはイエスが復活して、今も生きておられると信じますか？

(解説) 最後の質問は、適用の質問です。参加者一人一人に聞いて、今日の聖書のことばが今の自分の生活にどんな意味があるのか、具体的に考えるように導いて下さい。

9章

世の終わりはいつですか？（マタイ 24 章）

まずマタイの福音書 24 章全部を読みましょう。その後で、以下の質問に答えて下さい。

1、世の終わりはいつですか？

（マタイ 24：3）イエスがオリーブ山で座っておられると、弟子たちがひそかにみもとに来て言った。「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのですか。あなたが来られ、世が終わる時のしるしは、どのようなものですか。」

（マタイ 24：36）ただし、その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。

（解説） 世の終わりの日、主イエスが再臨される日がいつなのかは、誰も知りません。ただ父なる神様だけが知っておられると、聖書が言っています。だから、もし誰かが「世の終わりの日は、何年何月何日だ」などと言っていたら、その人は偽り者、惑わす者です。そのような人の言うことを信じてはいけません。しかし、世の終わりというのは、いつの日か必ず来ると、聖書の中に書いてあります。だからこそ、世の終わりについて、前もって聖書から正しく学んでおく必要があるのです。

2、世の終わりには、どんな前兆がありますか？

（マタイ 24：4，5）そこでイエスは彼らに答えられた。「人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わします。」

（マタイ 24：23-25）そのとき、だれかが、『見よ、ここにキリストがいる』とか『そこにいる』とか言っても、信じてはいけません。偽キリストたち、偽預言者たちが現れて、できれば選ばれた者たちをさえ惑わそうと、大きなしるしや不思議を行います。いいですか。わたしはあなたがたに前もって話しました。

（解説） 本物があるから、偽物も存在するのです。今の時代にも、偽救い主、偽教師、偽宗教団体がたくさん出てきています。彼らも大きな奇跡を見せて惑わします。聖書の一部を利用しますが、聖書全体の言う通りには教えません。もし「私こそが救い主だ」とか「私たちの団体にだけ救いがある」などと言う人がいたら、その人は間違いなく偽り者、惑わす者です。私たちは聖書のみことばによって、彼らを見分けなければなりません。

（マタイ 24：6，7）また、戦争や戦争のうわさを聞くことにはなりますが、気をつけて、うろたえないようにしなさい。そういうことは必ず起こりますが、まだ終わりではありません。民族は民族に、国は国

に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震が起こります。

(解説) 今の時代は、世界中あちこちで戦争が起きています。飢饉も多いです。地震も頻繁に発生しています。これらのことを見ると、今は終末が近づいていることが分かります。

(マタイ 24 : 9-13) そのとき、人々はあなたがたを苦しみにあわせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。そのとき多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合います。また、偽預言者が大勢現れて、多くの人を惑わします。不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷えます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。

(黙示録 2 : 10) 死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与える。

(解説) 終末の時代になると、イエスを信じる者は大きな迫害を受けます。今でもある国では、イエスを信じたゆえに殺される者も多くいます。しかし彼らは、地上の命よりも天国での永遠のいのちのほうがもっと重要だと信じたので、イエスを選んで命を捨てました。イエスを信じることは、それくらい価値がある、ということなのです。だから、何も考えないで、簡単にイエスを信じるように、とは言いたくありません。イエス様に従う道には、犠牲が伴います。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は勝利を得ます。イエス様のために命を捨てる者は、永遠の御国でいのちの冠を頂くのです。

(マタイ 24 : 14) 御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。

(解説) イエス・キリストの救いの福音を全世界の全ての民族に証しした後に、再臨の日が来ると、聖書は約束しています。今、世界中に存在する民族の大部分には、既に福音が届いています。イエスを信じる者が起こされ、教会ができて、その部族の言葉で聖書が翻訳されています。福音がまだ届いていない部族(未伝道部族)は、約3千しか残されていないとされています。そのような未伝道部族にも、今多くの宣教師たちが行って、福音を宣べ伝えています。だから、全ての民族に福音が証しする任務が完了する日は、かなり近づいています。その日の後に、キリストは再び来られるのです。……このように、聖書の預言を見てみると、今の時代は、終わりの日が非常に近い、間もなく来る、と見分けることができるのです。

3、イエスはどのようにして再び来られますか？

(マタイ 24 : 30) そのとき、人の子のしるしが天に現れます。そのとき、地のすべての部族は胸をたたいて悲しみ、人の子が天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見るのです。

(解説) その終わりの日には、主イエスは偉大な力と栄光と共に天から雲に乗って降りて来られます。地上の全ての民族、全世界の全ての人々は、そのイエスの再臨を一度に同時に見ることになります。だから救い主は、ある一部の人だけが見るものではありません。「彼が本当に救い主だろうか」などと疑う

余地ありません。全ての人々にはっきりと、明らかに現れるものなのです。

4、その後、人々はどのようにになりますか？

(マタイ 24:31) 人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。

(I テサロニケ 4:16, 17) すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。

(黙示録 20:4-6) また私は、イエスの証しと神のことばのゆえに首をはねられた人々のたましいを見た。彼らは獣もその像も拝まず、額にも手にも獣の刻印を受けていなかった。彼らは生き返って、キリストとともに千年の間、王として治めた。残りの死者は、千年が終わるまでは生き返らなかった。これが第一の復活である。この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対して、第二の死は何の力も持っていない。彼らは神とキリストの祭司となり、キリストとともに千年の間、王として治める。

(解説) 主イエスの再臨の日にイエスを信じている者は、天に引き上げられます(携挙)。主イエスが治める御国で主と共に住み、キリストと共に治める者となるのです。だから、イエス様を信じる者にとって、終わりの日は恐ろしい日ではありません。それは希望の日、勝利の日、最高の喜びの日、永遠の祝福を手に入れる日なのです。

(II テサロニケ 1:7-9) このことは、主イエスが、燃える炎の中に、力ある御使いたちとともに天から現れるときに起こります。主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に罰を与えられます。そのような者たちは、永遠の滅びという刑罰を受け、主の御前から、そして、その御力の栄光から退けられることになります。

(黙示録 20:12-15) また私は、死んだ人々が大きい者も小さい者も御座の前に立っているのを見た。数々の書物が開かれた。書物がもう一つ開かれたが、それはいのちの書であった。死んだ者たちは、これらの書物に書かれていることにしたが、自分の行いに応じてさばかれた。海はその中にいる死者を出した。死もよみも、その中にいる死者を出した。彼らはそれぞれ自分の行いに応じてさばかれた。それから、死とよみは火の池に投げ込まれた。これが、すなわち火の池が、第二の死である。いのちの書に記されていない者はみな、火の池に投げ込まれた。

(解説) イエスを信じない者にとっては、再臨の日は嘆き悲しむ日となります。なぜなら「自分が信じるにはもう遅い」というをはっきり知らされるからです。その時にどんなに後悔しても、もう手遅れです。救いの道は閉ざされました。救い主イエスを信じなかったので、罪の赦しを得ることはできません。天国のいのちの書に名前が記されていません。だから、最後の審判の時には、自分の行いに応じて裁判されます。その後で、地獄の火の池の中に投げ込まれます。彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受けること

になるのです。

5、では、私たちはどうすべきですか？

(マタイ 24 : 35) 天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません。
(マタイ 24 : 36-39) 洪水前の日々にはノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていました。洪水が来て、すべての人をさらってしまうまで、彼らには分かりませんでした。人の子の到来もそのように実現するのです。

(マタイ 24 : 43, 44) 次のことは知っておきなさい。泥棒が夜の何時に来るかを知っていたら、家の主人は目を覚ましているでしょうし、自分の家に穴を開けられることはないでしょう。ですから、あなたがたも用心していなさい。人の子は思いがけない時に来るのです。

(解説) 主イエスの再臨の日は、誰も分かりません。その日は、思いがけない時に来ます。ノアの大洪水のように、泥棒のように、ある日突然来るのです。だから「私は後で信じます。いつの日か信じるでしょう。年取ってから、死ぬ直前に信じます」などと言ってははいけません。「見よ、今は恵みの時、今は救いの日です。」(Ⅱコリント 6 : 2) 遅らせずに、明日ではなく、今日の今、この時に、主イエスを信じて受け入れなさい。それがあなたにとって最緊急課題、真っ先にしなければならないことです。全世界が滅んでも、主イエスのことばは永遠に滅びることはありません。だから聖書のみことばは、信頼するに値する約束です。その聖書の警告を軽く見てはいけません。

「この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを守る者たちは、幸いである。時が近づいているからである。」(黙示録 1 : 3)

(マタイ 24 : 45-47) ですから、主人によってその家のしもべたちの上に任命され、食事時に彼らに食事を与える、忠実で賢いしもべとはいったいだれでしょう。主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。まことに、あなたがたに言います。主人はその人に自分の全財産を任せるようになります。

(解説) イエスを信じる者たちは、自分の主人が帰って来る日まで、忠実に働かなければなりません。主イエスの救いの福音を、一生懸命宣べ伝えなければなりません。あなたの家族、親戚、友達の中で、イエス様をまだ信じていない人がいたら、彼らに知らせるのを遅らせてはいけません。神が与えた小さな仕事に忠実な者は、天国で大きな報酬、相続財産を与えられます。私たちの主が再び来られる日を待ち望みましょう。「アーメン。主イエスよ、来てください。」(黙示録 22 : 20)

6、もし明日イエスが再臨するとしたら、あなたは今、何をしますか？

(解説) 最後の質問は、適用の質問です。参加者一人一人に聞いて、今日の聖書のことばが今の自分の生活にどんな意味があるのか、具体的に考えるように導いて下さい。

10章

いつ洗礼を受けますか？（使徒 8 章）

まず使徒の働き 8：26－40 を読みましょう。その後で、以下の質問に答えて下さい。

1、エチオピアの宦官は、聖書を読んでいて、その意味がわかりましたか？

（使徒 8：30, 31）そこでピリポが走っていくと、預言者イザヤの書を読んでいるのが聞こえたので、「あなたは、読んでいることが分かりますか」と言った。するとその人は、「導いてくれる人がいなければ、どうして分るでしょうか」と答えた。そして馬車に乗って一緒に座るよう、ピリポに頼んだ。

（使徒 8：34, 35）宦官はピリポに向かって言った。「お尋ねしますが、預言者はだれについてこう言っているのですか。自分についてですか。それとも、だれかほかの人についてですか。」

（解説）このエチオピアの宦官は、礼拝のためにエルサレムに上り、帰る途中でした。創造主なる唯一の神を信じていました。聖書（旧約）もよく読んでいました。しかし、読んではいても、その意味はよく分かりませんでした。では、どうしたら良いのでしょうか。「導いてくれる人」が必要です。聖書を読んでいて、もし分からないことがあれば、クリスチャンの友達に聞いて下さい。教えて導いてくれる人と、1対1で聖書を学んで下さい。その宦官のように「この聖書の箇所は、何を意味していますか？」と質問して下さい。その宦官が読んでいた箇所は、旧約聖書の中にあるイザヤ書の 53 章でした。その箇所は、救い主イエスの十字架での贖いの死について書いてある所です。ピリポはこの聖書の箇所から始めて、イエスの福音を伝えました。イエス・キリストが分かると、聖書が分かります。イエス様を信じて受け入れた後も、続けて聖書を学ばなければなりません。もっと深く理解して、天国に入る日まで学び、成長し続けるのです。「主のおしえを喜びとし、昼も夜も、そのおしえを口ずさむ（思い巡らす）人」は、幸いです。（詩篇 1：2）

2、バプテスマ（洗礼）を受けるのに、何か妨げがありますか？

（使徒 8：36, 37）道を進んで行くうちに、水のある場所に來たので、宦官は言った。「見てください。水があります。私がバプテスマを受けるのに、何か妨げがあるのでしょうか。」そこでピリポは言った。「もしあなたが心底から信じるならば、よいのです。」すると彼は答えて言った。「私は、イエス・キリストが神の御子であると信じます。」

（解説）バプテスマ（洗礼、又は浸礼とも言います）とは、水の中に身を沈めて、引き上げることです。主イエスを信じてクリスチャンとなったことを、神と人との前で明らかにする儀式です。そのバプテスマを受けるのに、何が必要でしょうか。イエス・キリストが神の御子であると心底から信じるならば、良いのです。イエス様を自分の人生の主人、救い主として信じて受け入れて、救いの確信を持つ者は誰

でも、バプテスマを受けて良いのです。水さえあれば、それで良いのです。他に妨げるものは何もありません。例えば「毎週日曜日教会に行けない」「まだ罪がたくさんある」「自分のような者はふさわしくない」「周りの人がどう見るかが怖い」「家族が許可してくれない」「受ける勇気がない」「良い行いがまだできていない」「聖書もまだよく分からない」「少し日にちがたってから、後で受ける」……などと言いついてはいけません。それらのことは、バプテスマを受けた後から、ついて来るものなのです。信仰生活をしていく中で、少しずつできるようになっていきます。自分の力ではなくて、主イエスの恵みによって、変えられていきます。だからまず「私はバプテスマを受けます！」と、はっきり決心して下さい。遅らせてはいけません。教会の牧師先生と相談して、受ける日を約束して下さい。その後で、イエス様が道を開いて下さいます。イエス様を妨げることができるものは、何もありません。

3、バプテスマは、どのように受けますか？

(使徒 8 : 38) そして、馬車を止めるように命じた。ピリポと宦官は二人とも水の中に降りて行き、ピリポが宦官にバプテスマを授けた。

(ローマ 6 : 3, 4) それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。

(解説) バプテスマ式の順序は、まず授ける先生と受ける者が洗礼槽（又は川、池、海など）に入ります。(適礼の場合は、頭の上から水を注ぎます。) 先生が「あなたはイエス・キリストを自分の救い主として信じますか？」と質問します。受ける者は「はい、信じます」と答えます。すると先生は「父、子、聖霊の名によって、バプテスマを授けます」と言って、その人を水の中に沈めます。そしてすぐに引き上げます。そのように水に沈める（浸す）ことは、主イエスの死と共に葬られ、古い人が死んだことを意味します。水の中から引き上げるといのは、主イエスが死者の中から復活したように、主イエスを信じた者も、新しいいのちに歩むことを意味します。主イエスと共に復活して、新しい人生を始めるのです。

4、バプテスマを受けた後、どのようにしたらいいですか？

(使徒 8 : 39) 二人が水から上がって来たとき、主の霊がピリポを連れ去られた。宦官はもはやピリポを見ることはなかったが、喜びながら帰って行った。

(使徒 2 : 41, 42) 彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

(解説) 宦官はバプテスマを受けた後、喜びながら自分の道を帰って行きました。バプテスマを受けた者も、喜びながら自分のクリスチャン生活を歩んでいくのです。バプテスマは、結婚式と似ています。主イエスは花婿、私たちは花嫁です。新しく家族親戚となった教会員たちを招いて、共に喜びます。し

かし、結婚式をして終わりではありません。その後から結婚生活、夫婦生活が始まるのです。夫婦は親しい交わりを持ちます。イエスを信じて受け入れた後も、毎日聖書を読んで祈ることによって、主イエスと会話します。家族親戚とつき合うように、教会の他の信者たちと信頼関係を築きます。日曜日に教会に行って、礼拝をささげます。夫婦というのは、最初だけ愛するのではなくて、いつまでも互いに愛し合うものです。他のものを拝んではいけません。どんなに困難があっても、イエス様だけを第一として下さい。人生の最期まで、天国にたどり着く日まで、誠実を守るべきです。結婚式の後「私たち、結婚しました」というハガキを送るように、周りの人々に「私はイエス様を信じてクリスチャンになりました」とはっきり知らせて下さい。イエス・キリストの救いの良い知らせを、みんなに伝えて下さい。……クリスチャン生活というのは、重荷ではなくて「喜び」です。救われた喜び、初めの愛を、いつも思い出して下さい。そうすれば、その喜びは持続します。そしてその喜びは、他の人にも伝染していきます。あなたの喜びは、周りの人々に影響を与えるのです。その宦官は、自分の国エチオピアに帰った後、王宮で主イエスの福音を宣べ伝えたことでしょう。その後の歴史を見ると、エチオピアはキリスト教の国となりました。その宦官一人を通して、国全体が変えられたのです。あなたも主イエスを信じてその喜びの知らせを伝えるなら、あなたの国を変える人、世界を変える人となるのです！信じますか？神様はあなたを用いて、この世界を変えて下さいます。主イエスによって、世界を変える人（World Changer）となりましょう！！

5、あなたはいつバプテスマを受けますか？

（解説）最後の質問は、適用の質問です。参加者一人一人に聞いて、今日の聖書のことばが今の自分の生活にどんな意味があるのか、具体的に考えるように導いて下さい。